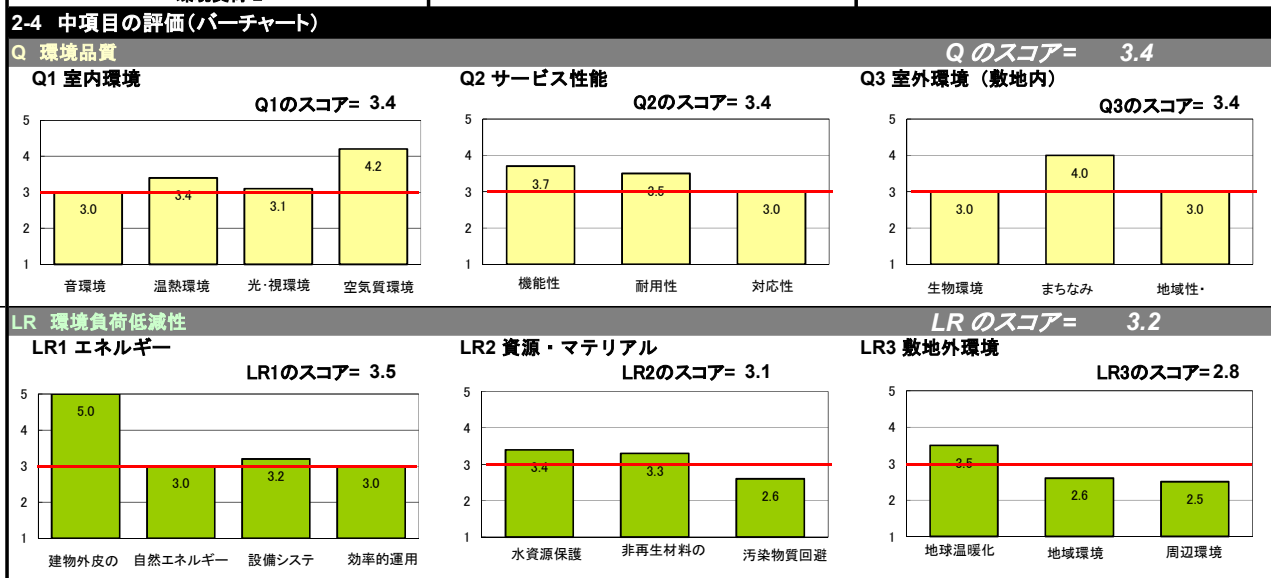
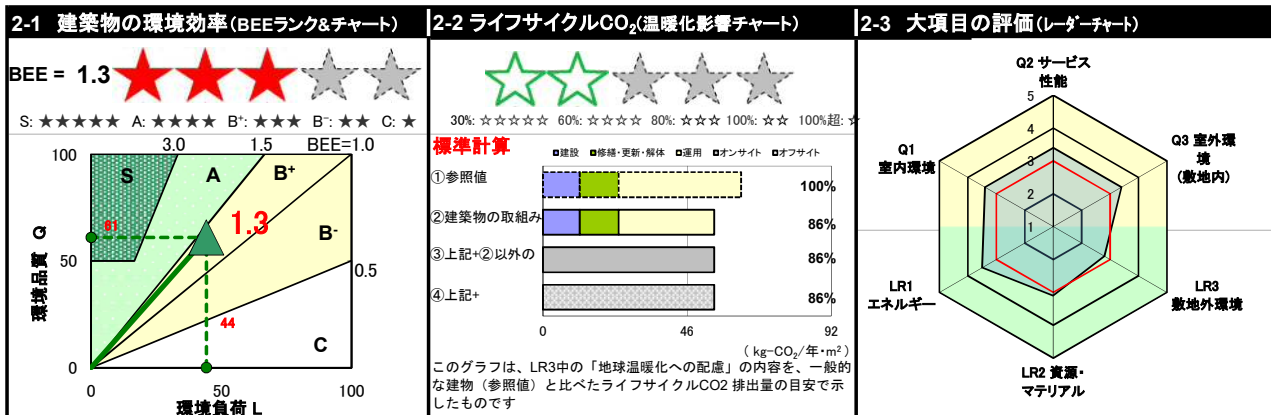




1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	発寒西小学校	階数	地上4階	
建設地	札幌市西区発寒5条7丁目581-2	構造	RC造	
用途地域	第2種中高層住居専用地域、景観計画区域、33m高度地区	平均居住人員	1,200 人	
建物用途	学校	年間使用時間	2,900 時間/年(想定値)	
竣工年	2020年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価	
敷地面積	15,477 m ²	評価の実施日	2018年5月25日	
建築面積	2,742 m ²	作成者	日本都市設計	
延床面積	9,364 m ²	確認日	2018年5月25日	
		確認者	日本都市設計	



3 設計上の配慮事項		
総合 ・複合化による交流施設。 ・車椅子対応の駐車場、エレベーターや多目的便所(オストメイト設置)を整備。		A 省エネルギー ・外断熱工法 ・Low-E กระจก ・LED照明
B 省資源等 ・外断熱工法により、躯体を保護し施設の長寿命化を図る。	C 緑化 ・札幌市緑の保全と創出に関する条例の基準値を上回る緑化計画を図る。 ・植栽計画による環境への配慮。	D 雪処理 ・冬の雪害を考慮し雪庇防止金物を設置。 ・グラウンド面に堆雪スペースを確保

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)			
発寒西小学校		欄に数値またはコメントを記入			
スコアシート		実施設計段階			
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		全体
			評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質					3.4
Q1 室内環境				0.40	3.4
1 音環境			3.0	0.15	3.0
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	
1.2 遮音			3.0	0.40	
1 開口部遮音性能			3.0	0.30	
2 界壁遮音性能			3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.20	
1.3 吸音			3.0	0.20	
2 温熱環境			3.4	0.35	3.4
2.1 室温制御			3.8	0.50	
1 室温			3.0	0.60	
2 外皮性能	省エネ	外断熱工法、Low-E複層ガラス採用	5.0	0.40	
3 ゾーン別制御性				-	
2.2 湿度制御			3.0	0.20	
2.3 空調方式			3.0	0.30	
3 光・視環境			3.1	0.25	3.1
3.1 昼光利用			3.4	0.30	
1 昼光率			3.0	0.60	
2 方位別開口				-	
3 昼光利用設備	省エネ	昼光センサーによる照明自動調光制御	4.0	0.40	
3.2 グレア対策			3.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ		3.0	1.00	
2 映り込み対策				-	
3.3 照度			3.0	0.15	
3.4 照明制御			3.0	0.25	
4 空気質環境			4.2	0.25	4.2
4.1 発生源対策			5.0	0.50	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の材料を積極的に採用	5.0	1.00	
4.2 換気			3.0	0.30	
1 換気量			3.0	0.33	
2 自然換気性能			3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33	
4.3 運用管理			4.0	0.20	
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50	
2 喫煙の制御		施設内・敷地内の全面禁煙を実施	5.0	0.50	

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.4
1 機能性			3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ			4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性			-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		車いす対応駐車場、点字ブロックの敷設、EVの設置、多目的トイレオストメイト対応	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース			-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		日常的な清掃・点検のしやすさ、ゴミの溜まりにくい仕様	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃、点検、保管等に配慮した計画	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.5	0.30	-	-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建物の重要度係数1.25	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		省資源	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		省資源	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		省資源	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		省資源 エコケブル、ステンレス鋼管の採用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		省資源	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
3 電気設備			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり				3.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			階高3.7m以上を確保	4.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				2.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性				1.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出		緑化		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化	昇降口前にオープンスペースを設け、隣接する発寒中学校との連続性や地域の憩いの場となる交流拠点の創出に寄与	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		省資源 緑化		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPI _m =0.74	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	[BEI][BEI _m] 0.78	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング		省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		省エネ		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓洗面器、節水型便器、センサー自動小便器、一部擬音装置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減		省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		省資源		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		省資源	躯体と仕上材が容易に分別可能 OAフロア、可動間仕切り	5.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		2.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮	省資源	緑化基準を満たしている	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 蓄熱		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		適切な台数の駐車スペースを最大限確保	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 資源処理		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			2.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.60	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	0.20	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要

建物名称	発寒西小学校	BEE	1.3	BEEランク	B ⁺
建物用途	学校				
延床面積	9,364.4 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0 雪処理 省資源等への取組 緑化への取組 ★1=スコア(最低点～最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点～最高点)20%～40%以下 ★3=スコア(最低点～最高点)40%～60%以下 ★4=スコア(最低点～最高点)60%～80%以下 ★5=スコア(最低点～最高点)80%以上
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★★☆	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー（ 最高点 23.5 最低点 6.6 ）				合計		16.8点 / 23.5点	
Q1 温熱環境	スコア	1.4	／1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0	／4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.4	／2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	／2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	6.4	／10.0
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	／4.0
B 省資源等（ 最高点 23.7 最低点 7.7 ）				合計		14.7点 / 23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7	／1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.9	／9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	／2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.1	／1.9
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.5	／5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1	／4.4
C 緑化（ 最高点 15.3 最低点 3.1 ）				合計		9.9点 / 15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7	／4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	／2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8	／6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	／2.3				
D 雪処理（ 最高点 3.0 最低点 0 ）				合計		3.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	／1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	／2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数